

研修医の声

期待と不安

長岡赤十字病院

名古屋 美月

長岡赤十字病院 研修医2年目の名古屋美月と申します。ついこの間入職したと思っていましたが、あっという間に研修生活も折り返し地点を過ぎました。この場を借りて、1年間を振り返りたいと思います。

研修の始まりは消化器内科からでした。3年目の先生につかせていただき、カルテの使い方から、輸液管理、腹部CTの読み方、内視鏡のやり方に至るまで、様々なことを教えていただきました。その先輩医師は、研修を終えたばかりとは思えない働きぶり、憧れや尊敬の念と共に、自分もこんな風になれるのだろうかという不安を感じたのを覚えています。それでも、徐々に仕事を覚え、できることも増えていきました。その後も内科を中心に様々な科をまわらせていただきました。中でも印象に残っているのは、ある内科の指導医の姿です。常に患者さんやご家族、周りのスタッフに対して丁寧な態度で接し、医師としてはもちろん、

人としても学ばせていただくことが非常に多くありました。私は学生時代から、理想の医師像として、人から信頼される医師というのを掲げていました。そのロールモデルを見出させていただけしたのは、今後医師として働く上での宝となると考えています。

期待と共に、大きな不安を持って始まった研修医生活ですが、上級医の先生方や同期の姿を見て、医師という職の魅力を教えていただいたのだと感じています。これからも周囲への感謝の気持ちを忘れずに努めて行きたいです。

最後になりますが、長岡赤十字病院の素敵な仲間を紹介します。研修は2年間という短い間ですが、診療で患者さんと接する楽しさ、できないこと・分からないことに対する不甲斐なさ、学ぶことの面白さなど、多くのことを感じられる貴重な機会です。それらを共有できる頼もしい仲間たちと出会い、研修を共にできたことに感謝します。



長岡まつり大民謡流しに毎年参加しています！
前列左（撮影者）が筆者



研修初日、ドクターヘリの前で記念撮影